

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：24301

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01205

研究課題名（和文）新出コレクション「西村公一文庫」の目録作成と江戸時代の日本伝統音楽の資料学的研究

研究課題名（英文）Creating a catalogue for a newly discovered collection, the Nishimura Koichi Library and Documentary research into traditional Japanese music in the Edo period

研究代表者

竹内 有一（TAKEUCHI, Yuuichi）

京都市立芸術大学・日本伝統音楽研究センター・教授

研究者番号：60381927

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,100,000円

研究成果の概要（和文）：「西村公一文庫」は日本伝統音楽に関する新出コレクションである。西村公一氏（大阪府在住）は、日本近世演劇（人形浄瑠璃文楽や歌舞伎）の音楽をはじめ、近世歌謡、その他の音楽に関する古典籍の木板本を、大阪・京都の古書店を中心に収集することに努められたという。同文庫は、いわゆる「上方（かみがた）」、京都・大阪を中心とする文化圏における日本伝統音楽の資料群として、西日本随一の点数を誇るものである。

本事業は、同文庫の資料全点の目録化を第一の目標として、資料の登録番号付与と分類作業、西村公一氏からの聞き取り、研究組織各員による書誌研究と研究報告会の三つを研究成果とするべく展開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

新型コロナ禍によって、西村公一氏からの聞き取り、研究組織各員による書誌研究と研究報告会の成果は、当初の企図から形を変え縮小化したものとしたが、その代替として資料の登録番号付与と分類作業の成果構築に注力した。資料概観の悉皆撮影を交えて、書誌データの入力・点検の精度を高め、今後、より詳細な書誌情報を充実させた分類目録を編纂するための基盤を整備したこと、コレクションの総数（約五千二百点）と概要を把握するに至ったことが主要な学術的意義である。また、複数の研究報告、資料の紹介や展示企画によって、同文庫の存在について学界への認知向上に努めたことが主な社会的意義である。

研究成果の概要（英文）：The Nishimura Koichi Library is a newly discovered collection of traditional Japanese music. Nishimura Koichi (who lives in Osaka) has made an effort to collect woodblock prints of classical music related to Edo period theater (Bunraku and Kabuki), Edo period folk songs, and other music, mainly from second-hand bookstores in Osaka and Kyoto. The collection boasts the largest collection of materials in western Japan on traditional Japanese music from "Kamigata," the cultural sphere centered on Kyoto and Osaka.

The primary goal of this project was to catalogue all of the materials in the collection, with the aim of achieving three research outcomes: (i) Assigning registration numbers to the materials and classifying them; (ii) Interviews with Nishimura Koichi; and (iii) Bibliographical research and research presentations by members of the research group.

研究分野：近世日本音楽芸能史

キーワード：西村公一文庫 近世の音楽と演劇 近世の木板本 書誌研究 上方（かみがた）

1. 研究開始当初の背景

(1) 近世商業出版と芸能のメディアミックスという基軸

近世演劇である「人形浄瑠璃」と「歌舞伎」は、安土桃山時代の末・江戸時代の初め頃、慶長年間の京都の興行界で誕生した芸能文化である。いずれも直前の頃、琉球から伝来し改良された楽器「三味線」を用いた点で、前代までの芸能とは異なった性格を持つ。また江戸時代の初めに京都で成立した木板印刷の技術は、漢籍・経典といった古典ばかりでなく、同時代の演劇「人形浄瑠璃」「歌舞伎」に関連する娯楽書をも刊行して、商業出版の先駆けとなった。17世紀に京都で誕生した「人形浄瑠璃」と「歌舞伎」は大坂や江戸へも進出し、18世紀には大坂で「義太夫節」が成立して「人形浄瑠璃文楽」の源流となり、大坂という経済都市の成長を背景に、大坂で刊行された浄瑠璃本は日本全国はもちろん、遠く琉球へまで流布するに至った。また19世紀に江戸の「歌舞伎」で生まれた数々の音楽流派が「上方 かがた」（京都や大坂）へ流入するなど、東西の劇場音楽の交流が起こった。「人形浄瑠璃」も「歌舞伎」も、舞台の興行と連動して数多くの出版物を刊行し、日本近世文化の一大特徴である「木板印刷」という最新技術を用いたメディアミックスを遂げていたのである。

(2) 近畿地域における近世木板本コレクションの問題点

しかるに18世紀大坂で出版された義太夫節の浄瑠璃本は、研究分担者の神津武男によると、45都道府県で360の公共機関(図書館・博物館・歴史民俗資料館・文書館)に伝存するが、地域で数えると、所蔵機関数も所蔵点数も、近畿より関東が多いという(神津監修、徳島市立徳島城博物館企画展「浄瑠璃本の阿波淡路」2015年)。これは東京の大学図書館などが近代に多く収集したことが関東地域の所蔵点数を積み増した原因だと考えられるが、対するに近畿地域の公共機関が、江戸時代の木板本を収集することに消極的であることが、近畿地域の所蔵点数を押し下げる要因となっているのである。

近畿地域は日本史上ながく朝廷が置かれていたため、室町時代までの「中世文書」と呼ばれる古史料が豊富に残る。よって京都や大阪で特に歴史資料を扱う公共機関(博物館・歴史民俗資料館・文書館)では、江戸時代の資料までは整理の手が回らないといった現状である。前代までの史料が多く残り過ぎるために、さらに豊富に残ると考えられる江戸時代の劇場音楽や三味線音楽に関連する木板本をまとめて所蔵し、整理・公開する機関が、近畿地域の公共機関には無いのである。日本近世演劇である「人形浄瑠璃」と「歌舞伎」にとって京都は誕生の地であり、かつ連動して木板本として流通することを可能たらしめた木板印刷にとっても京都は創業の地である。にも関わらず、江戸時代の関連資料が未整理の状態におかれているのは、皮肉な現象であるといえよう。

(3) 西村公一文庫の出現とその意義

研究対象とする「西村公一文庫」は、西村公一氏(大阪府豊中市在住)が収集された日本の伝統音楽に関する一大コレクションである。西村氏は、義太夫節の浄瑠璃本を中心とした日本近世演劇(人形浄瑠璃文楽や歌舞伎)の劇場音楽をはじめとして、日本近世歌謡や、その他の日本伝統音楽に関する古文献(木板本)についての収集家である。その資料は大阪・京都の古書店を中心として、三重・愛知までのひろく関西圏と捉えられる範囲に限って収集することに努められたものという。ここから、「西村公一文庫」を総合的に分析し資料学的に研究したならば、かつての近畿地域に流布した江戸時代の劇場音楽や三味線音楽に関連する木板本の概要を推し量ることが出来るのではないかと発想した。

2. 研究の目的

本研究課題の目的は、「西村公一文庫」の目録化を第一歩として、新出コレクションの全貌を学界へ紹介して、日本伝統音楽の資料学的研究に資することである。

事前の調査で、西村公一文庫は四千点を超えることが判明していた。いわゆる上方、京都・大阪を中心とする文化圏における日本伝統音楽に関する資料群としては、他に例をみない巨大さである。また、西村公一文庫は、雅楽や箏・琴などの音楽をはじめ能楽の謡本や近世歌謡の類まで、日本音楽史を広く俯瞰できる分野を収集対象とした点、特定分野の点数の多さという点で、早稲田大学演劇博物館、国立音楽大学竹内道敬文庫、大阪大学忍頂寺文庫など学界周知のコレクションとは重複しない個性・特徴がある。西村公一文庫の目録化を遂げた段階では、近世演劇(歌舞伎、人形浄瑠璃文楽)の関連資料を所蔵する機関として国立音楽大学竹内道敬文庫に次ぐ、日本国内第二位の巨大なコレクションとなり、また西日本地域としては随一の資料点数を誇るコレクションとなる。日本伝統音楽や演劇の研究界へ資するところが大きいものと考えている。

本研究課題の学術的独自性は、「西村公一文庫」自体が持つコレクションの性質によって担保される。すなわち、近畿地域に流布した江戸時代の劇場音楽や三味線音楽に関連する木板本の概要を捉える端緒となる点にある。西村文庫の資料群は、江戸時代の木板本の通常の体裁である「半紙本」「横本」ばかりでなく、無表紙のいわゆる「仮綴 かりとじ」(紙縫で二箇所綴じただけの簡易製本)の「薄物」(丁数の少ない冊子)なども多く、三味線音楽の周辺に行われた出版物の多様さをよく反映している。当該コレクションの整理に当たっては、デジタルカメラによるカラー写真を撮影することを並行して進めるが、これは将来において近畿地域で同種の資料が収集・整理される際の、参考資料となることを期すものである。江戸時代の劇場音楽や三味線音楽に関連してどんな資料があったのか。具体的な画像を添えて目録化することを遂げて、日本伝統音楽における、今後の資料学的研究を促す実践例となる点に、本研究課題の創造性がある。

3. 研究の方法

(1) 資料の登録番号付与と分類作業、目録データベース作成

資料の管理を厳密に行うために、資料の一点ごとに一つの登録番号を与えた。また、資料のジャンルごとに分類して、研究組織各員の担当範囲ごとに目録化の作業を進めた。資料の目録は、市販のデータベース専用ソフトウェアで独自の入力フォーマットを作り、それによるデータベース構築によって作成した。なお、虫損等を予防し永続的保存性を高めるため、中性紙の保存箱を導入した。

(2) 西村公一氏からの聞き取り

西村氏は、収集された資料について自身で調査し、整理を試みられていた。本研究課題では、西村氏の整理と資料収集の問題意識を継承したいと考え、研究組織全員で西村氏へ聞き取り調査を行ってコレクション形成の背景を記録する予定を立てた(コロナ禍により内容を一部変更した)。

(3) 研究組織各員による書誌研究と研究報告会

研究組織各員は、担当するジャンルおよび個別の資料について書誌研究を進めた。また、各員が担当するジャンルについての報告を行う研究会を開催する予定を立てた(コロナ禍により内容を一部変更した)。

4. 研究成果

2024年3月時点の目録データベースに基づく、仮登録した分野名称と点数の内訳は、以下の通りである。

雅楽 26	能狂言 295	古浄瑠璃 11
義太夫節 1097	一中節 22	宮古路節 26
常磐津節 421	富本節 27	清元節 178
宮園節 11	新内節 52	長唄（別種目を含む） 1417
箏（書題「琴曲」を含む） 218		地歌（書題「歌曲」を含む） 57
説経節 24	都々逸 25	
中国古琴 8	笛 16	その他・要考証 約1300

「義太夫節」は当初からの収集対象であった故か、一つの種目としては最も数が多い。その内訳は通し本676、道行揃27、読本浄瑠璃2、関係書4、抜き本（五行本）328、写本その他（未分類を含む）60である。「長唄」の数が多いのは、劇場系の江戸長唄だけでなく、複数の音楽分野が暫定的に含まれるためである。これは書誌データ作成の方針上、上方板の書題に添えて板刻される「長唄」等の文字を分野名称として抽出したことによるもので、地歌、上方歌、端唄その他の別種目と認識され得るものも、この数に含まれている。同様の方針により、書題の「箏」「琴曲」「歌曲」等を書目の分野名称として扱ったが、主に日本音楽史学での呼称として定着している「地歌箏曲」といった種目名称との棲み分けをどう整理していくかは今後の課題と認識している。そのほか分野名称として適切でない仮分類（「笛」）とした資料、「その他・要考証」として残る約1300もの資料が、引き続き今後の分類整理をまっている。

上記のような分類整理上の諸課題については、今後、別の研究事業において、板元（京都の吉野屋勘兵衛など）と分野の関連についての調査研究や、各分野の伝承曲を踏まえた内容考証を進めて、より精度の高い分類整理に上げていくことが要請される。

(3) 主な公開活動

「3. 研究の方法」に記したように、西村公一氏からの聞き取り、および研究組織各員による研究報告会についてはコロナ禍のため、内容を変更して少人数の分担で効果的に成果を公開することに専念した。その主要な一つが、西村公一文庫の新出資料を広く紹介するオンライン学術講座「西村文庫の意義と魅力 日本伝統音楽研究の新出コレクション」（担当：竹内・神津、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター主催2022年度伝音セミナー）の開催である。同講座において、西村氏からの聞き取りの一部、撮影した資料画像、目録データベースなどに依拠しながら、わかりやすいスライドを用いて研究成果の一部を公開した。2023年度の東洋音楽学会第74回大会においては、西村公一文庫の特徴と意義を広く学界の研究者に報告するため、竹内と神津が「新出コレクション西村公一文庫の特徴と可能性」というタイトルで口頭発表をおこない、研究成果の社会還元をはかるとともに、西村文庫のより広い活用を呼びかけた。

また「5. 主な発表論文等」に記すように、研究組織各員が各自の様々な研究課題において西村文庫本を多角的に利用し、それによって西村文庫活用の諸事例を世に示すとともに、コレクションの存在を広報する役割を担った。さらに日本伝統音楽研究センターの展示スペースを借用して、展覧「近松半二の浄瑠璃本 全署名62作品と存疑作を辿る」と題して、神津が計3回の展示企画を実現させた。この展覧は、西村文庫本多数を展示ブース内において精緻なキャプションとともに展示する意図があり、西村文庫の学界への認知向上に大きく貢献した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計22件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 竹内有一	4. 巻 14
2. 論文標題 常磐津節正本板元坂川屋の出版活動（2023年度公募研究成果報告）	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 早稲田大学演劇博物館 演劇映像学連携研究拠点 NewsLetter	6. 最初と最後の頁 9,23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 神津武男	4. 巻 21
2. 論文標題 展覧資料「近松半二の浄瑠璃本 全署名62作品と存疑作を辿る」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本伝統音楽研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 竹内有一	4. 巻 13
2. 論文標題 常磐津節正本板元坂川屋の出版活動（2022年度公募研究成果報告）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 早稲田大学演劇博物館 演劇映像学連携研究拠点 NewsLetter	6. 最初と最後の頁 9,24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 神津武男	4. 巻 26
2. 論文標題 江戸の浄瑠璃本板元・大坂屋秀八と外題目録『両竹鑑』について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 松茂町歴史民俗資料館館報『歴史の里』	6. 最初と最後の頁 1,22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田隆則	4. 巻 28
2. 論文標題 謡の節にこめられる演劇性 能の下歌・上歌	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 119,133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田隆則	4. 巻 1161
2. 論文標題 伝統音楽の言葉・身体・思想(33) 楽譜の書字方向が生み出すもの	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 楽報(都山流楽報)	6. 最初と最後の頁 2,3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田隆則	4. 巻 冬期号
2. 論文標題 序破急のひろがり 雅楽から能へ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 道標(仏教を身近にする伝道誌)	6. 最初と最後の頁 4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田隆則	4. 巻 1159
2. 論文標題 伝統音楽の言葉・身体・思想(32) 義太夫節礼賛 老人はなぜ回帰するのか	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 楽報(都山流楽報)	6. 最初と最後の頁 2,3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内恵美子、周耘	4. 巻 1
2. 論文標題 依据日本雅楽古譜復原唐代琴曲之研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 音楽藝術（上海音楽学院）	6. 最初と最後の頁 76,82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神津武男	4. 巻 25
2. 論文標題 同時代史料から考える初代文楽と「文楽の芝居」について 初代文楽を「植村文楽軒」と呼ぶことは誤りであること	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史の里	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹内有一	4. 巻 12
2. 論文標題 2021年度公募研究成果報告「坂川屋旧蔵常磐津節正本板木の基礎的研究」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 早稲田大学演劇博物館 演劇映像学連携研究拠点 NewsLetter	6. 最初と最後の頁 7,15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 藤田隆則、中川志信	4. 巻 57
2. 論文標題 伝統芸能「能」における間・呼吸・拍子不合のデザイン研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人間工学	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 神津武男	4. 巻 13
2. 論文標題 『日蓮聖人御法海』三段目切「勘作住家の段」の成立と伝来について 作者・並木宗輔の追善興行としての初演と、初代豊竹麓太夫の改訂本文による再生 附リ・並木宗輔浄瑠璃本著作年譜	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 早稲田大学高等研究所紀要	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神津武男	4. 巻 24
2. 論文標題 初代竹本綱太夫の添削活動と伝記に関する覚書 人形浄瑠璃文楽の歴史研究の難しさ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史の里	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺信一郎	4. 巻 12
2. 論文標題 秦王破陣楽の時代 燕楽の唐宋変革・三統	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 唐宋変革研究通讯	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹内有一	4. 巻 27
2. 論文標題 ぶたい：常磐津家元所蔵浄瑠璃本の修理から復曲へ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 楽劇学	6. 最初と最後の頁 81-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹内有一	4. 巻 11
2. 論文標題 公募研究成果報告「坂川屋旧蔵常磐津節正本板木の基礎的研究」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点 NewsLetter	6. 最初と最後の頁 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計22件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 竹内有一、神津武男
2. 発表標題 新出コレクション西村公一文庫の特徴と可能性
3. 学会等名 東洋音楽学会第74回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 竹内有一
2. 発表標題 常磐津節正本板元坂川屋の出版活動 (2023年度)
3. 学会等名 早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点成果発表会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 竹内有一、鈴木英一
2. 発表標題 常磐津節正本板元坂川屋の出版活動 (2022年度)
3. 学会等名 早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点成果発表会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 竹内有一
2. 発表標題 刊行された諸本との関係
3. 学会等名 早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点公募研究主催シンポジウム「常磐津浄瑠璃本の板木研究をめぐって 演劇博物館所蔵坂川屋旧蔵資料より」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤田隆則
2. 発表標題 京都市西京区が舞台となっている謡曲
3. 学会等名 伝音セミナー2022年度第2回（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 神津武男、竹内有一
2. 発表標題 西村文庫の意義と魅力 日本伝統音楽研究の新出コレクション
3. 学会等名 伝音セミナー2022年度第1回（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 竹内有一、鈴木英一
2. 発表標題 研究報告：坂川屋旧蔵常磐津節正本板木の基礎的研究（2021年度）
3. 学会等名 早稲田大学演劇博物館 演劇映像学連携研究拠点 成果発表会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 渡辺信一郎
2. 発表標題 平等院鳳凰堂に響く天上の音楽
3. 学会等名 日本伝統音楽研究センター伝音セミナー
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 武内恵美子
2. 発表標題 江戸時代の催馬楽復元と創作 浦上玉堂による平安の音楽文化を再現するための試みー
3. 学会等名 中日音楽比較研究及び團伊玖磨先生記念学術シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 武内恵美子
2. 発表標題 Music for the Samurai Class during the Edo Period -The cases of Hirosaki Domain-
3. 学会等名 国際シンポジウム「雅楽の文化史」カリフォルニア大学サンタバーバラ校
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤田隆則
2. 発表標題 能楽における「息」の仕組み
3. 学会等名 日本人間工学会関西支部大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 齋藤柱
2. 発表標題 コメディ・パレと上方芸能の類似点：「似ている」「似ていない」から考える文化史
3. 学会等名 大阪市立青少年センター
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 齋藤柱
2. 発表標題 音としての言葉：日本の近代文学と音楽
3. 学会等名 日本伝統音楽研究センター伝音セミナー
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 渡辺信一郎
2. 発表標題 秦王破陣楽の創成と展開
3. 学会等名 日本伝統音楽研究センター伝音セミナー
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 竹内有一、鈴木英一
2. 発表標題 2020年度研究報告「坂川屋旧蔵常磐津節正本板木の基礎的研究」
3. 学会等名 早稲田大学演劇博物館 演劇映像学連携研究拠点 2020年度研究成果報告会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計10件

1. 著者名 竹内有一編著	4. 発行年 2024年
2. 出版社 常磐津節保存会（文化庁補助事業）	5. 総ページ数 150
3. 書名 常磐種 一 天之巻（翻刻・注釈）（常磐津節の伝承資料に関する調査報告書2023年度）	

1. 著者名 竹内有一編著	4. 発行年 2023年
2. 出版社 常磐津節保存会（文化庁補助事業）	5. 総ページ数 134
3. 書名 常磐種 一 天之巻（影印）（常磐津節の伝承資料に関する調査報告書2022年度）	

1. 著者名 渡辺信一郎	4. 発行年 2023年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 350
3. 書名 汲古叢書175 中國古代國家論	

1. 著者名 渡辺信一郎、歴史総合研究会	4. 発行年 2023年
2. 出版社 かもがわ出版	5. 総ページ数 240
3. 書名 さまざまな歴史世界（一七世紀以前の世界史1 講座：わたしたちの歴史総合 1）	

1. 著者名 竹内有一 編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 常磐津節保存会	5. 総ページ数 106
3. 書名 『老の戯言』（注釈） 『都の錦・老の戯言』その三』（常磐津節の伝承資料に関する調査報告書二〇二一年度、文化庁補助事業）	

1. 著者名 渡辺信一郎（徐冲訳）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 上海人民出版社	5. 総ページ数 264
3. 書名 中国古代的王権与天下秩序（増訂版）	

1. 著者名 渡辺信一郎（詹慕如訳）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 台湾 聯經出版社	5. 総ページ数 286
3. 書名 中華的成立（岩波新書・中國の歴史 ）	

1. 著者名 齋藤桂（分担執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 アルテス・パブリッシング	5. 総ページ数 10
3. 書名 鈴木鼓村『耳の趣味』を読む（細川周平編『音と耳から考える：歴史・身体・テクノロジー』	

1. 著者名 竹内有一 編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 常磐津節保存会	5. 総ページ数 102
3. 書名 『老の戯言』（影印・翻刻） 『都の錦・老の戯言』その二 （常磐津節の伝承資料に関する調査報告書二〇二〇年度、文化庁補助事業）	

1. 著者名 藤田隆則	4. 発行年 2021年
2. 出版社 京都市立芸術大学	5. 総ページ数 -
3. 書名 語りの立体化そして復曲 狂言、能、題目立（DVD映像集の企画・監修）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	神津 武男 (KOZU Takeo) (10424821)	京都市立芸術大学・日本伝統音楽研究センター・客員研究員 (24301)	
研究分担者	渡辺 信一郎 (WATANABE Shin-ichiro) (10031618)	京都市立芸術大学・日本伝統音楽研究センター・客員研究員 (24301)	
研究分担者	藤田 隆則 (FIJITA Takanori) (20209050)	京都市立芸術大学・日本伝統音楽研究センター・教授 (24301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	武内 恵美子 (TAKENOUCHI Emiko) (30400518)	京都市立芸術大学・日本伝統音楽研究センター・准教授 (24301)	
研究分担者	齋藤 桂 (SAITOU Kei) (20582852)	京都市立芸術大学・日本伝統音楽研究センター・講師 (24301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関